
リハビリテーション天草病院だより

2016年10月

No. 80



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

埼玉県地域医療構想について

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

全国都道府県に法律で義務づけられた「地域医療構想」が埼玉県でも9月に策定されました。この稿では、埼玉県におけるその概略と加えて私見を述べることにします。

■地域医療構想策定の目的

全国で例外なく急速に高齢化が進み、「団塊の世代」の全員が75歳以上となる平成37年(2025年)には、年齢構成などの人口構造の変化に伴う医療や介護の需要の大きな変更が現実となります。そのような状況下で、医療や介護を必要とする県民が、出来る限り住み慣れた地域で必要なサービスの提供が受けられる体制を確保するためには、病床(病院)機能の分化・連携、在宅医療の充実を図ることを目的とし、限られた医療資源を前提に地域医療構想を定めることが重要であると、されています。

■病床(病院)機能の分化・連携について

構想では埼玉県内を10圏域に分け、それぞれの圏域における「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つの医療機能別に(4つの機能別の役割は、本誌No.77に掲載)平成37年の入院患者数を推計し、それに基づく必要病床数をはじき出しています。平成37年の推計を踏まえた必要病床数推計と病床機能報告による必要病床数の比較は表に示す通りです。表から、「高度急性期」と「急性期」が病床削減対象となり、「回復期」と「慢性期」が増床対象となることが分かります。

■在宅医療の充実について

このことに関しては、既に本誌で数回にわたり説明していますので割愛します。

病床機能報告による病床数と必要病床数の比較

	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答
平成27年度病床機能報告	50,023	6,389	24,674	4,023	12,552	2,385
平成37年必要病床数推計	54,210	5,528	17,954	16,717	14,011	
差引	▲4,187	861	6,720	▲12,694	▲1,459	

【参考】既存病床数(28.3月時点) 50,893

■構想についての私見

- 紙面が足りないため、箇条書きにします。
- ・構想は病床機能の再編と、より地域に密着した在宅医療の体制整備を求めている。この構想を推進するに当たっては、地域住民や医療や介護提供者の意見を十分に反映したものとしなければならない。
 - ・構想は「医療費及び介護費抑制策」に資するものにならざるを得ない側面を持つことに留意すべきである。高額な財政支出が必要な医療費や介護費となる入院医療や入所介護から低額費用で済む在宅医療に軸足を置いた施策を国策としてを展開していくことに注意なくてはならない。
 - ・回復期が相当数不足する(12,694床)とされているが、回復期に該当する病床は「回復期リハビリ病床」はそれ程ではなく「地域包括ケア病床」が数多く含まれていることを明確に構想の中に記載すべきであるが明示されていない。今後の大きな課題である。

訪問リハビリについて

地域リハ部長 古澤 浩生

訪問リハビリテーション（以下「訪問リハビリ」と略す）は、心身機能の維持回復を図り、日常生活の自立を支援するために、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がご自宅を訪問し、主治医の指示に基づいて、「理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーション」を行うものをいいます。

当法人で展開されている「訪問リハビリ」は2種類で、リハビリテーション天草病院内から出発する訪問リハビリと、訪問看護ステーション敬愛から出発する訪問リハビリとがあります。

上記二つの訪問リハビリの特徴として、まず、病院から出発する訪問リハビリの場合は、①介護保険適用であること、②3ヵ月に一度、当院へ受診していただき主治医の処方が必要であること、および③理学・作業・言語療法士がケアプランに従ってご自宅へ訪問し、リハビリ訓練を提供させて頂くものであることです。

他方、訪問看護ステーション敬愛から出発する訪問リハビリは、①医療保険・介護保険いずれの適用も可能であること、②6ヵ月に一度かかりつけの医師からの指示書が必要であること、および③理学・作業・言語療法士単独の訪問ではなく、看護師の訪問も併せて必要な利用者様に対して提供させて頂くものであることです。

ところで、理学・作業・言語療法士の業務プロセスとしては、簡単に申しますと医師か

ら頂く処方や指示を基に、患者様・利用者様の運動状況の分析を行い、その結果から問題点を考察し、そしてこれに対応する最適な治療的介入を行うという手順となります。

全国の療法士数は年々増加しており、近隣の市町村においても、訪問リハビリを提供する事業所が増えてきていますが、それに伴って各地域の中でも、療法士の技術において格差が広がってきていることには注意が必要です。



一概に訪問リハビリと申しましても、単に「療法士が訪問した」という事実だけでは不十分であり、適切でかつ有効な治療的介入が十分に可能な付加価値力の高い療法士の訪問でなければ意味がありません。

当法人においては、ポバース概念を基本に据え、運動項目の分析から最適な治療介入に至るまでのプロセスに関し、多種多様なプログラムを用意して職員の教育を行っています。

今後、訪問リハビリをご利用になる皆様におかれましても、「家に来てくれて安心」ということだけではなく、「しっかりと充実したリハビリの提供」が行われる事業所かどうか、私どもも含めて厳しい目を持ってご評価いただければ幸いです。

「天草病院へ入院をして」

春日部市 高野 すみゑ

平成28年8月6日の朝のことです。自宅のトイレで用を足した後、廊下に出た時に転んでしまい1人では起きられなくて息子に起こしてもらいました。それから左の股とお尻の痛みがずっとありました。そのため息子が会社を休んでくれて家の近所の秀和総合病院で診てもらいました。その結果、左大腿骨の骨折でした。そして8月9日に手術を行いました。その間あつという間の出来事で何が何だか分からない気持ちでした。手術は順調にいき、リハビリを勧められ天草病院を希望しました。平成28年8月26日天草病院へ入院しました。

私の家族は、息子と隣に娘家族とさらに隣に孫家族の3軒が並んでいます。そして孫の嫁がここ天草病院で看護師として働いています。仕事の日には毎日顔を出してくれます。そんな嫁を私は大好きで毎日楽しく入院生活を過ごすことが出来ています。また、私は以前にも膝の手術をし、天草病院へ入院しています。今回は2回目の入院です。そして、偶然にも前回担当してくれたリハビリの先生にお世話になっています。薬局の人とも知合いであり、いつも優しく声をかけてくれます。歯科もずっと通っています。天草病院に来て本当に良かった。3回目はないことを祈っていますが、近所に天草病院があつて良かった。本当に心強く頼れる病院だと思っています。これからもまだ少しばかり天草病院にお世話になりますが、皆様には本当に感謝しています。
(投稿日 平成28年9月9日)

「妻の遺言」

春日部市 千吉良 幸二郎

今日は、亡き妻の四十九日。7年前に乳癌と診断され手術。2年程は素晴らしく元気(週に4日スポーツクラブに通いダンスのレッスンに汗を流し、土日も頻繁にいろいろな大会・競技会に参加していた)だったが、癌が転移し、帰らぬ人となった。妻は春日部市内5つの中学校で30年余り美術の教師として働いていた。出張等で妻に会った同僚からは「羨ましい」と言われることが多く私には過ぎた妻だった。

妻の病状が悪化していた最中の6月25日に私は脳梗塞を発症し、秀和総合病院に入院。カテーテルステント手術と毎日3種類のリハビリを受けて8月1日からリハビリテーション天草病院に転院してきた。妻の最期を看取することも喪主を務めることもできなかったもので四十九日だけとは思ひ主治医の先生から外出願の印を頂いていたが、娘や義姉から「四十九日はリハビリに専念して下さい。これは故人の遺志でもあるから」と強く説得された。また、娘の話では8月19日から23日までリハビリテーション天草病院で実施された勉強会(治療実習)を参観した娘と義姉は長時間の熱心なりハビリ実習に感心して、最終的に私のリハビリ優先を決めたとのことだった。

妻が他界する前日の電話で何とか聞き取れた最後の言葉は「くまちゃん(私の事らしい)」「私のことが好き?(生前も繰り返し言っていた)」「リハビリ頑張つてね」だった。

8月30日、他界後、初めて妻が夢枕に立った。「リハビリを頑張るから」と声をかけた。小さな花柄の服を着た妻は色白だが血色の良い穏やかな顔をしていた。

(投稿日 平成28年9月3日)

「頑張らずに、ゆっくりと・・・」

越谷市 稲見 晃正

それはあまりにも突然で、まさしく青天の霹靂のような出来事でした。冬の朝の会議中に皆の前で話をしていたら急に体に力が入らなくなって病院に救急搬送されました。気付いた時には、脳出血と知らされ、既に左手と左足は動かないどころか皮膚の感覚すらまったく無くなっていました。若い頃からの仕事優先の生活と不摂生を悔やむと同時にまだ、子供は小さいし、自分のやりたい事は山ほどあるのに果たしてこんな体で今後どうしたら良いのか？ 激しい絶望感に打ちひしがられ、しばらく眠れぬ夜が続きました。しかし、いくら過去を悔み今後は心配しても元の体に戻るはずもなく、やがて「どうせ、なるようにしかならないんだ」と開き直ってみたらどこか吹っ切れてさらに「こうして生きているのも何か意味があって生かされたのかも知れないぞ」と勝手に思ったら、少しずつ冷静になってリハビリに専念してみようと思うようになりました。

そして、リハビリで評判の天草病院に転院して来ました。しかし、リハビリは直ぐに効果のあるものではなく、三步進んで二歩下がるならまだ良いのですが、時にはあまりの進歩の無さに挫折しそうな日も何度かありました。そんな折、ある患者さんの病室に貼られた色紙には「焦らず、諦めず」と大きく書かれているのを見て、その言葉は自分の心に深く染み渡りました。それから入院して4ヶ月が過ぎて、もうすぐ退院の日を迎える前にこの文章を書いています。今では、リハビリの先生方のお陰で杖を使わずに1～2km歩けるようになりました。それでも、まだ痛みの残る体でこの安全な天草病院を離れるのはとて

も怖くて勇気がいるのですが、一家の主としては仕事もあるし、いつまでも病院に甘えている訳にもいきません。退院後は少しずつ仕事に復帰し、通院しながら実社会でリハビリして行こうと思っています。

最後に「未来とは、今日という日の連続の結果」だそうです。焦らず諦めず、「今、自分に出来る事をする」。これからは何よりも自分と家族を優先して、毎日少しずつ前を向いて歩んで行きたいと思っています。

決して頑張らずにゆっくりと・・・。

(投稿日 平成28年8月17日)

「充実した施設と多数のスタッフによるリハビリ」

春日部市 白倉 昇二郎

呼吸器系の病気と脳梗塞の為、春日部市内の病院で2ヶ月を過ごした頃には、私の身体は10kgほど痩せて手足は細くなり筋力は衰えてしまいました。

体力の回復のため3月10日に天草病院に転院しました。看護師の方々や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の先生方の親切、丁寧な指導を受けて少しずつ回復に向かっています。リハビリは衰えた筋肉を伸ばしたり、柔らかくしますが、前日に柔らかくなった筋肉も翌日の朝には再び固くなってしまいますので毎日繰り返してはありますが少しずつ回復に向かう形で進みます。入院して驚いたことがあります。それは施設が充実していること。もう一つはリハビリにかかわる先生(スタッフ)の人数が非常に多いと言うことです。こんな病院は今まで聞いたことがありません。

一日も早く家に帰りたい、元の生活に戻りたいの一心でリハビリに励んでいます。

(投稿日 平成28年5月12日)

情報システム開発部のご紹介

情報システム開発部長 加藤 良一

2015年1月、事務部の一部門であったシステムグループが独立し、法人全体のIT関連業務を所管する部署として当情報システム開発部が設立されました。

パソコンやプリンター、ネットワークといったハードウェアの選定・導入・保守も含めて所轄業務としつつ、担当業務の中心は医療・介護業務の円滑な運営をサポートするシステム構築およびソフトウェア開発にあります。

医療・介護の請求業務、レントゲンの画像管理に関しては、メーカーの販売するパッケージシステムを使用していますが、それを除く法人内のほとんどのシステムは、当部門にて開発・運用しています。

システム構築にあたっての大事な点は、テクニカルな熟練度よりも、医療・介護の制度改定に対して簡単迅速に対応でき、かついかに現場業務の補助ができるかにあります。

ところで、私たちの所管している業務は、IT（Information Technology の略 情報技術のこと）関連業務として括られることが多かったのですが、最近はICT（Information Communication Technology の略 情報伝達技術のこと）などと呼ばれるケースも増えてきました。ハード、ソフトを含めたOA化の推進に中心が置かれていた状況から、次第に通信技術を中心に据えた「技術と人との伝達の重要性」がクローズアップされるようになってきたということになります。

先にも述べましたが、システム構築にあつ

ては、技術的な習熟度はさほど重要視しておりません。それよりも、業務の手順を詳細に伝えてもらうこと、そしてシステムの設計仕様を正確に理解した上で開発指示を出してもらうことが重要で、正しいシステムを短期間に構築する上でのポイントになります。

私たちの業務において、正確な情報伝達は非常に重要です。取り立てて難しいことではないように思われるかも知れませんが、正確に考えを伝達することは簡単ではありません。十分に伝達したつもり、されたつもりでも、実はお互いの理解が食い違っていたということは珍しくありません。そもそもシステムを構築することは、多くの時間を必要としますので、途中で気づけば傷口も小さくてすみませんが、完成後に行き違いに気づいた場合には、修正対応に多くの時間を使うことになってしまいます。その時間を取り返すことは容易ではありません。

今後とも適切なシステム構築が図れますよう、部門内・外を問わず一層のコミュニケーションアップに努めてまいりますので、みなさまのご協力をお願い致します。

最後に、当部門SEの写真を掲載します。



加藤 良一

橋本 美枝

福本 伸一

当施設の通所リハビリテーション利用について

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 通所部 部長 和田 幸二

今回は通所リハビリの加算について説明をしたいと思います。

加算には色々な種類があります。1つ1つについて算定基準があり、人員や設備・提供内容・書類作成等を適正に実行しなくてはなりません。当然ながら、サービスを受ける方や家族・ケアマネジャーへの説明も必要になります。

見方を変えれば、多くの加算項目の算定が出来る施設は、良質なサービス提供が出来る事を表していると思います。

当施設でも複数の加算の算定を受ける為に人材の確保や環境の整備を進めてまいりました。

利用する皆様に少しでも満足していただけるように日々取り組んでおります。

では、現在算定しているものの中で次の3項目について説明致します。

1. サービス提供体制強化加算 I

介護職員で介護福祉士の国家資格を持っている者の割合が50%以上の場合が算定可能となります。介護の知識や技術において専門性を持つ人材確保に努め、より良いサービスを提供することを目的としています。

当施設の場合、介護福祉士の割合は65～75%前後と高い水準を継続しております。サービスの質が一定以上であると保障された事業所と言う事になります。

2. 中重度者ケア体制加算

全利用者（介護1～5の方）の中で要介護3～5の方の割合が30%以上、かつ利用時間帯に看護師が勤務している事で算定が可能となります。国は在宅生活をしている要中重度介護の方で医療ニーズのある方の受け入れ促進を考えています。

当施設の場合は、要介護3以上の方の割合が36%前後で、また、看護師も勤務しており加算の算定を行っています。

対応としては、広すぎない落ち着いた部屋にて、職員配置を増やし細かく状態確認が取れるようにしていますので、皆様に安心してご利用いただいていると思います。

3. 口腔機能向上加算

言語聴覚士、歯科衛生士又は看護職員を1人以上配置していることや口腔機能が低下している方へ適切なサービス提供を行っている時に算定が可能となります。

ただし、3ヶ月毎に見直しが必要です。また、歯科に通院している方は対象になりません。お医者さんに診ていただけてください。

当施設の場合、歯科衛生士が火・水・金曜日で対応しています。月2回程度に歯の状態の確認や研ぎ方の指導等を行っています。時には、歯医者に行く事を迷っている方が活用される事もあります。また、施設の言語聴覚士とも連携して摂食・嚥下が悪い方にも対応しています。お気軽にご相談ください。

編 集 手 帳

＊かなり前に自民党が、続いて産経新聞社、読売新聞社が憲法改正案を公表しましたが、これらの案は一時的に国民の関心を呼んだものの先の参院選までは殆ど話題になりませんでした。しかし、ここに来て、つまり、参院選でいわゆる「改憲勢力」が3分の2を超える結果となり、にわかに脚光を浴び始めました。これまで「安倍政権の下では改憲審議には応じない」としてきた民進党が「自民党が憲法

草案を撤回するならば審議に応じる」に変わりました。議論は、当たり前のことですが、お互いの「案」を持ちより活発に話し合うのが常道です。民進党も改正案を作成し議論するのが筋ですが、私には意味不明の朝日新聞、毎日新聞の「自民党案撤回論」に力を得てか、一向に「民進党案」を作る気配はありません。＊民進党は少なくとも、改正に反対なのか、あるいは一部の改正に賛成なのかを国民に示す義務があると思うのですが如何でしょうか。
(理事長天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

バラをイメージした紙飾りは、友人が持ってきてくれたものです。友人はパーキンソン病で、手が震える状況であっても、このバラを作り、私にプレゼントしてくれました。病気になり、友人がプレゼントしてくれた、このバラが私のリハビリの希望となりました。私は脳梗塞になり、右手を動かそうとしても、思うように動かず、文字を書くのが好きな私にとって、辛く悲しい出来事でした。元気な時は夫の仕事で、お客さんへの礼状を書くのが私の仕事でした。パソコンでは温かみがないので、文章をどうしても手書きにしたかったのです。今は、病院の皆さんのおかげで、指が少しずつ動くようになり、手前にある、花をイメージした紙飾りを作るまでになりました。自分1人ではここまで回復しなかったと思います。最終目標は友人のバラを作成することです。日々の努力をすることの大切さを感じています。退院したあとリハビリは私の一生の勉強だと思っています。

夫は私が病気になって初めて家事を覚え、努力してくれました。だから私もリハビリの努力を続けていきたいと思います。
常田フミ子